

中庭の植栽計画について

— 老人大学、「いなみの学園」の中庭計画の事例を中心として —

養 内 捷 之

はじめに

兵庫県高令者生きがい創造協会、「いなみの学園」が老人大学として誕生して本年で10年目を迎えた。この創立十周年の記念に、中庭修景が立案された。

1979年10月に学園同窓会および福智盛園長（現在名誉園長）により企画され、基本構想として示された。それは、敷地の中心に記念像（題名：「仔馬と少女」）を置いて将来への飛躍のイメージを出したいこと、この中庭を造園の手法でまとめることであった。

ところで、筆者がこの計画を依頼された時、できるだ

け合理的な企画立案を旨とした。何故なら、計画の本質は「意志決定」に外ならないからである。一般に、依頼者と計画者の関係を、問答を重ねて行く、クライアントとカウンセラーの関係になぞらえる人も多い。

今回の事例において、中庭の植栽計画をできるだけ普遍妥当性の中で追究すべく、大勢の人々（職員・学生の皆様）の間で対話がなされ、徐々に課題解決して行けたことは喜ばしい。ここに新しい知見を得たので報告する。

さて、記念像を中心にすえたシンボルゾーンの構想について参考となるのは、加西市フラワーセンターの「農

花と緑の祭農
— 1977 農業高校展 —
高校名と校木の配置平面図

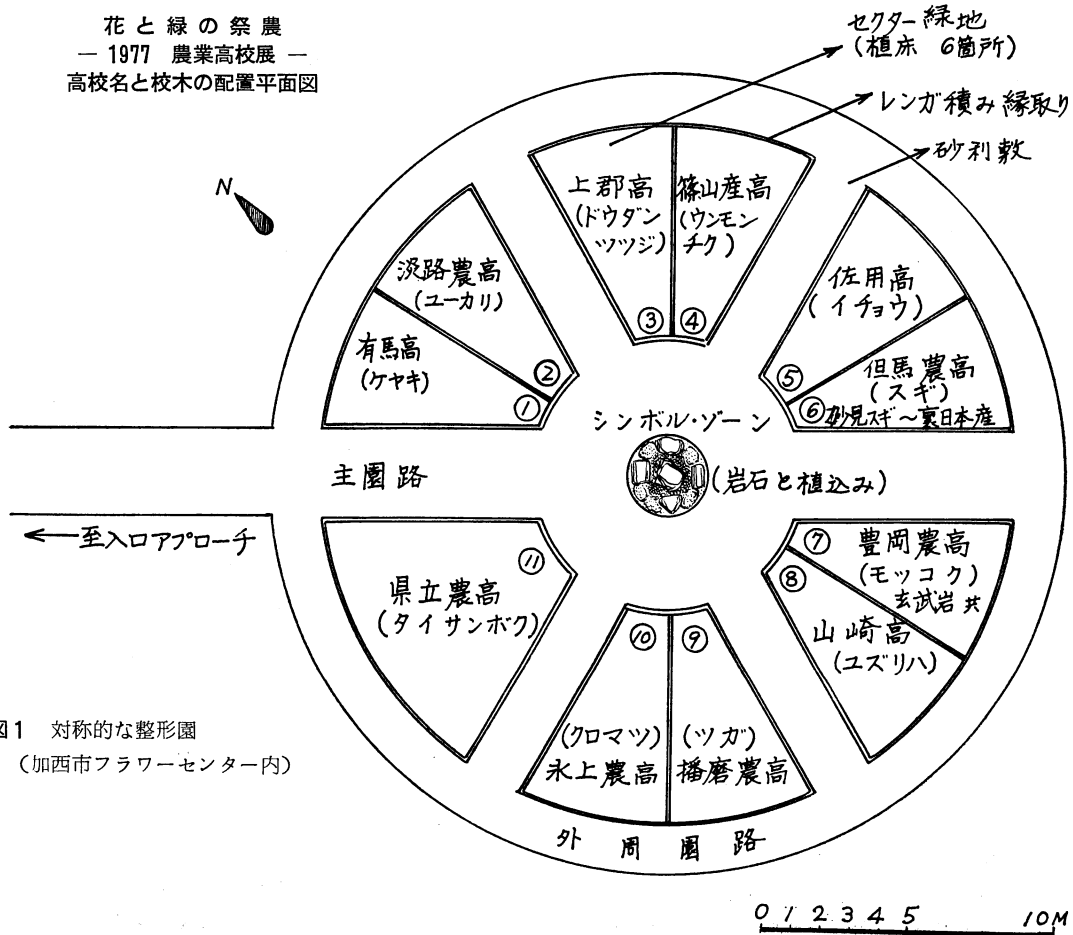


図1 対称的な整形園
(加西市フラワーセンター内)

業高校展」であろう。それは、1977年5月に「花と緑の祭典」の一環として催し、県下11校の農業高等学校がめいめいの校木を出品し、皇太子御夫妻を奉迎した所で、現在、ちびっこ広場になっている。(図1参照)

この前例も参考にしながら、新たに植栽計画を当中庭について立てた。この過程で、植栽デザインの条件(制限)と植栽用途の具体例と、計画の目的・手段とを明らかにしたい。

この計画作製に際しアイディアを直接出し、御助言をいただいた名誉園長福智盛先生に感謝の意を表します。また同時に、学園大学院自然科コース2年の皆さんが計画案をもとに、敷地測量から、基礎打ち、施工、植栽ま

で実習していただいたことを付記したい。

本事例研究が、同様の修景プランニングを施す時、何か参考ともなれば幸いである。

1. 植栽デザインについて

造園とはデザインである。植栽を計画した時、目に見える形の最終所産を「植栽デザイン」と定義することができよう。

その実施計画において、踏まえるべき条件を漏れなくとらえ、レイアウト(地割り)して行く。ここでは、具体的にアメリカの造園家、GARRETT ECKBO(1956年)の設計手順を用い、事例研究を試みる。(図2参照)

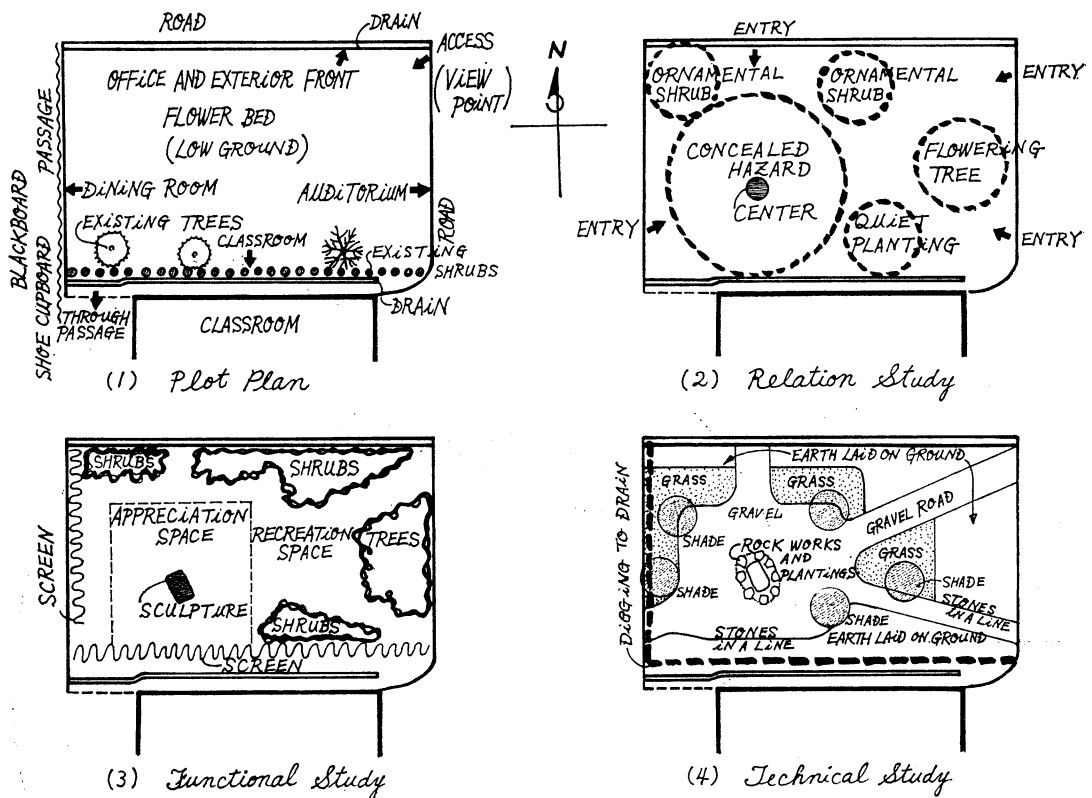


図2 レイアウトの手順(いなみの学園中庭)

(1) PLOT PLAN

調査資料を整理し、敷地にとって何が必要かをよく洗いなす。

現況では花壇園となり、やや低湿地気味である。四方を講堂、教室、食堂、事務棟に囲まれた中庭(18m×30m)を意味する。南側、教室沿いに、ヒマラヤシダ(中木2本)、センダン(高木1本)、マメツゲ(26株)が既存木として生えている。講堂・事務棟の道路方面より眺めることができ、教室・食堂方面へ視線をやると、

黒板や下駄箱が見え、ゴチャゴチャした感じを与える。

(2) RELATION STUDY

次に敷地と周囲空間との関連を検討する過程を経て、(2)の図がまとめられる。

広場の中央に記念像を設置し、その回りに観賞用の灌木、植込み、花木を配する。この広場を奥まった所に、独立した空間として、植栽で囲みたい。

そして、入口を四方につけ、広場の中心(記念像)に向けて、園路を通す。

(3) FUNCTIONAL STUDY

さらに、ここの各細部がそれぞれの機能を完全に発揮するための必要量の検討がなされ、(3)の図がまとめられる。

西および南側に「目隠し」生垣の仕切りを設ける。記念像→観賞空間→静的レクリエーション空間→植栽群という同心円状の拡がり想定したい。

この敷地が、長方形であるので、「類似」という点で全体にうまく調和するように、観賞空間もまた長方形に構成する。

(4) TECHNICAL STUDY

また、施工に当って、材料の種類、形状、数量などを決定する技術的な検討が重ねられ、(4)の図を得る。

植床の縁取りを玉石で仕切り、植栽部分を盛土する。園路および観賞空間には敷砂利とする。そして、静的レクリエーション空間の範囲まで芝草を貼る。周辺部の植栽群は、グループ別に花木および灌木でまとめる。

緑陰樹で頭上部を五カ所覆うことによって、木影の下で塙(とん)やベンチで人が憩うことができる。

以上は造園をするに当っての「レイアウトの手順」の一例を述べたもので、常にこの手順によるものでないことは勿論である。

2. 植栽の用途

この敷地内に、緑陰樹、花木、装飾樹、仕切り垣、灌木および芝生を計画に基き配する。

(1) 緑陰樹…㉔

落葉樹を多くし、トウカエデ、ケヤキ、アキニレ、ナンキンハゼノキ、クスノキの5本を配する。

(2) 花木…㉕

季節の花を楽しむもので、サルスベリ、ミズキの高木と、キンモクセイ、ギンヨウアカシア、ムクゲ、ナツツバキ、ハナカイドウの中木とを植込む。

(3) 装飾樹…㉖

中低木で、陰樹でも美しいものを20本植栽する。内訳は、センリョウ(3本)、ヒラギナンテン(4本)、シュロチク(5本)、アオキ(3本)、アスナロ(2本)、クチナシ(3本)があげられる。

(4) 仕切り垣…㉗

刈込み生垣で、高さ1.8m程度、生垣の背景効果を期待したもので、延長42mに達する。南北方向にサザンカ(8本)、東西方向にトベラ(20本)を列植する。

(5) 灌木および芝生…㉘

サツキ(径30cm級)を芝生面より20高くし、植潰(うえつぶし)で176㎡にわたり拡げる。またヒラドツツジ(径50m級、12本)を植潰と芝生の一体化をはかり散植(ちらしうえ)とする。

芝草はコウライ芝(75㎡、貼芝)とし、休息用で、緑陰樹の下に塙(とん)を置く。

(表1「植栽の用途および特性一覧表(いなみの学園中庭)」, 写真一参照)

3. 計画の要旨について

今回の中庭計画を立てる上での骨子を以下箇条書きにする。(図3, 4参照)

- (1) 景の中心を敷地面に偏らせた「偏心園」とする。野外彫刻を点景物とし、回りに広場と植栽を設けた。(記念像: 田中彰作『仔馬と少女』高さ1.1m)
- (2) 記念像を中心に対称に近い整形園とし、放射状の園路を4本通し、それぞれの進入路から中心に見通しがきくようにした。
- (3) 中庭であるよう、より良い独立空間を目指す。そのため、仕切り垣(トベラ)、刈込み生垣(サザンカ)で背景効果を出し、特に、南側には装飾樹を種々植えて茂みとした。東側、花木(実・葉・花を觀賞する木)の植栽は四季を通じて、色彩が楽しめるであろう。
- (4) 立面的構成は、記念像の地盤を最高にして、周辺を低くし、「仰ぎ見る」感じとなる。古典的なメルテンスの法則によれば「建物のみが全視野を占有する仰角として、約27°」をあげている。

ここで、像の高さを2.7mとし、視線高を1.5mと仮定すると、その中心から2.35mの範囲内に入ると、「仰ぐ」状態となり、記念像に迫力を増すことがわかる。

- (5) 記念像の構成は、像・中台・受石・野石基壇からなる。この野石(径50~60cm)を16個ばかり正方形(1辺2.5m)に並べる。地盤より20cmばかり盛土し、岩間にマメツゲを配し、上段に寄植花壇(1月現在ハボタン)を造る。
- (6) 既存木を利用する。ヒマラヤシダとセンダンについては現状のまま生かして使い、マメツゲについては記念像下の岩間に根締(ねじめ)として一部使いたい。

まとめ

中庭の植栽デザインの計画について、景に「中心」を置く時、次の項目を明らかにした。

- (1) 中庭をレイアウトの手順により、植栽条件を分析しデザインに積み上げる。
- (2) 景の中心に記念像をすえ、これにより、回りのおだやかな環境に溶け込みながら、アクセントとなり人の心に快い緊張感を与えるものである。
- (3) 植栽デザインを機能面から考えると、花木、仕切り垣および植潰はこの空間を囲み、装飾樹と散植はこの空間内部を区切り、緑陰樹は頭上を覆うことによってこの空間の限定度を高め、砂利敷と芝草はこの空間の敷地

表1 植栽の用途および特性一覧表

(いなみの学園中庭)

記号	分類	名称	主な用途	陰陽	乾温	土壌	生長	根系	移植	剪定	潮害	大汚染	備考
④	緑陰樹	トウカエデ	主木・植込・列植	○	中湿	壤	速	中	中	強	弱	強	街路樹に最適
		ケヤキ	主木・植込・列植	○	中	植壤	速	浅	易~中	強	中	中	同上
		アキニレ	主木・植込	●	湿	植壤	速	中	中		強	中	
		ナンキンハゼノキ	植込・列植	○	乾湿	砂壤	速	中	中	強		強	街路樹用
		クスノキ	主木・植込・列植	●	中	壤	速	中	中	強	中	強	同上
⑤	花木	ムクゲ	植込・刈込・生垣	○	湿	壤	速		易	強	中	強	花(8~10月)
		ナツツバキ	主木・植込	●	中	壤	中		中				花(6~7月) 白花。シャラ。
		ハナカイドウ	植込	○	中	砂壤	中	中	中	弱			カイドウ花(4~5月)
		サルスベリ	主木・植込・列植	○	中	壤	速		易	強	弱	強	花(7~9月)
		ミズキ	主木・植込	●	湿	壤	速	浅	易	強	中	強	花(5~6月)
		キンモクセイ	主木・植込・生垣	●	中	砂壤	中	深	中	強	弱	中	花(9~10月)
		ギンヨウアカシア	主木・植込	○	中	壤	速	浅	中	中	強	強	花(3~4月)
⑥	装飾樹	センリョウ	根締	●	湿	砂壤	遅	浅	中		弱	弱	
		ヒイラギナンテン	根締・植込	●	中	壤	遅	浅	易	弱	中	強	花(3~4月)
		シュロチク	植込・根締	●	中	壤	遅		中				
		アオキ	植込・刈込・根締・生垣	●	湿	砂壤	速		易		強	強	花(4月) 果(11~3月)
		アスナロ	植込・生垣・列植	●	中	植壤	遅	中	難	中	中	弱~中	
クチナシ	植込・刈込・生垣	●	中	壤	速		中	弱	中	中	花(6~7月)		
⑦	仕切垣	トベラ	植込・根締・列植	○	乾~湿	砂壤	速	中	中	強	強	強	花(5~6月)
		サザンカ	主木・植込・刈込・生垣	●	中	砂壤	遅	深	中	中	中	強	花(10~3月)
⑧	植遺	サツキ	植込・刈込・根締	●	中	壤	速	易	強	弱	強	花(5~6月)	

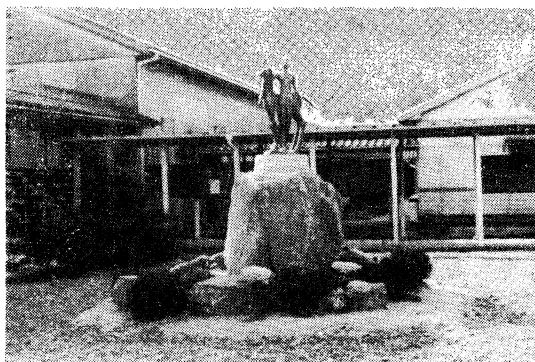


写真1 中央観賞ゾーン(彫像台石の回りはマメツゲ、ハボタンの寄植え。昭和55年1月造成中。)

に一つの雰囲気を出す。

(4) また、植栽デザインを美観面から考えると、既存木(ヒマラヤシダ、センダン)と装飾樹は庇影地を緑化し、花木や灌木は季節により花が美しく咲き、記念像の根締めおよび花壇は基壇でシンボルにふさわしく人目を引きつける。

以上、計画段階から施工に到る植栽デザイン述べた。しかし、管理(利用段階)、植栽以外の事、人間のレクリエーションについてはここではまだ触れていない。

もし、人間側からの計画に入るなら、利用人数、時間帯、頻度、利用者構成、必要空間、その他がフィードバックされよう。

また、施工の現場合わせで、実際、人が歩いて見て、距離感、閉鎖感、連続感、指向性、遮断、誘導、視軸線

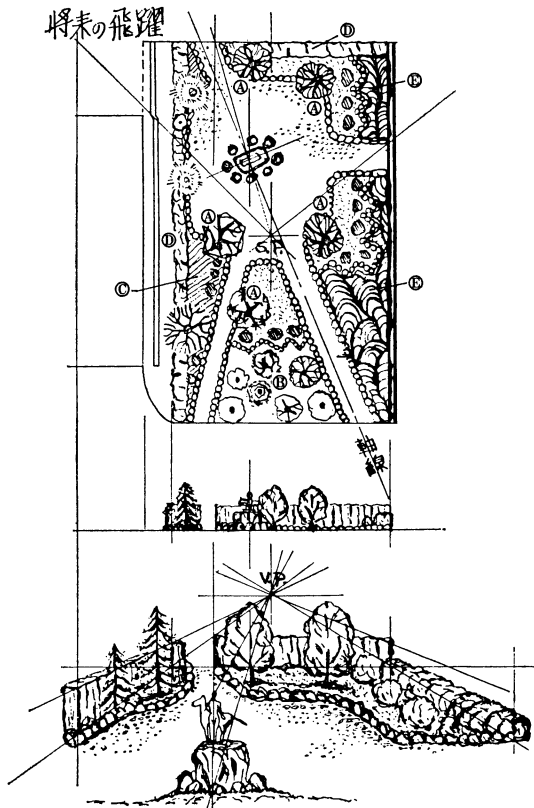


図3 いなみの学園中庭計画図

点景, 明暗, その他の項目が点検されねばならない。

これが何を意味するかといえば, 大自然と人間の接点を表わしている。大自然から派生した CULTIVATED PLANT が構成する環境はそれに対応した人間レクリエーションが要求されるのである。その逆もまた真である。

目に見える形の最終所産「植栽デザイン」の事例の一つとして, この中庭計画を紹介したい。

なお, 微調整(再設計)の必要が生じたのは, 南西部隅に, 目隠したためにトベラ, サザンカに代って, カイズカイブキ10本(高さ3m級)を植栽したこと, 排水のため南部(教室沿い)と西部(渡廊下沿い)に深さ60cm程度の掘り上げを行ったことである。

(1980年4月23日 記)

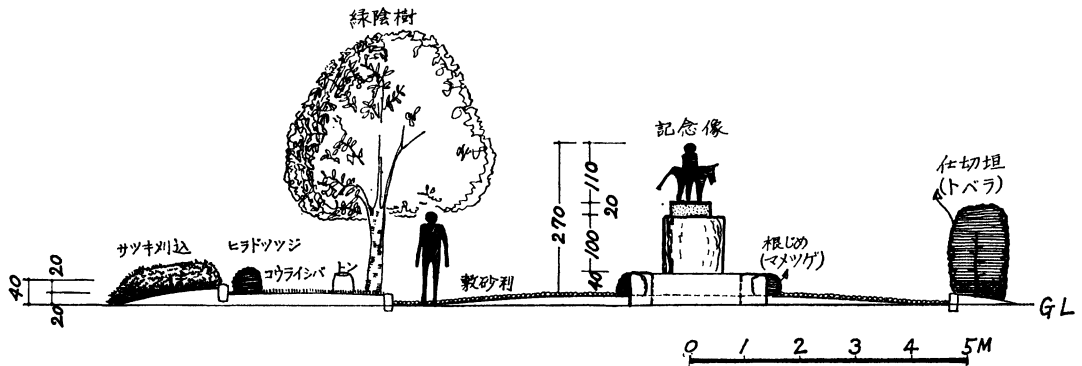


図4 いなみの学園中庭計画断面図